

第3回専門部会 議事録 (企業カテゴリー)

平成27年12月22日 (火) 18時30分～

登別市民会館 1階 大会議室

- ◆出席委員：高田 明人 委員
吉元 美穂 委員
松山 哲男 委員
米澤 厚 委員
合田 富重 委員
計5名

- ◆事務局：商工労政グループ穴戸商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆議題：(1) 各専門部会における具体的事業 (テーマ) の決定
(2) 事業内容の協議

【要旨】

項目	発言者	内容
	事務局 委員	<p>ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第3回専門部会を開催いたします。</p> <p>協議会が作られてカテゴリーごとに分け、我々が企業を担当しているところでありますが、今まで市内の各産業が抱える課題について協議会でまとめたものとして、1つはPR不足、連携、登別経済の方向性の不明確、雇用の場がないという中で問題、課題を整理した。今回は専門部会のテーマについてということで、コンセプトの豊かな地域経済と豊かなわが町についてというキーワードで登別において企業がどういう取組をやっていけばいいのかということで、この部会で話し合うことは、問題課題である企業における人材育成後継者作り、あるいは企業相互の連携、協力システムの構築、企業育成の取り組みが必要ではないかという、問題課題に対する対応策がイメージとして持てるのではないか。</p> <p>については、取組事例として同業種異業種間連携の意識・助成、それから登別版DMO、これについて説明すると、広域観光を考えていく中で、行政・観光協会・金融機関・民間企業などが集まって組織を新たに作って地域経済を活性化する考え方である。また、起業や事業展開に関するアドバイスを行う機関としてインキュベーションセンターの構築が考えられる。あるいは、後継者及び各専門分野における人材育成の構築。この辺を前提としてこの部会の検討テーマをどうするのかということで、皆さんから意見をもらってテーマを詰め、事業に対するコンセプトを明確にして5W2Hで具体的に協議していこうと思っている。</p> <p>今回は、異業種間の交流、ネットワーク、若手の受け皿が必要だと話をしたが、話が詰まったので地域の専門部会に合流して、外貨稼ぎのとらえ方の中で循環できる仕組みも考えなければいけな</p>

いと、連携という部分ではネットワークが必要だという話が出て、具体的には道の駅的なものが必要になると、そこで何を売るのかという水耕栽培による野菜や畜産物、魚介類に付加価値をつけて提供する方法がある。あるいは川上公園にオートキャンプ場やバーベキューコーナー、ドックランがあってもいいのではないかという話で終わった。

委員

今回は、登別経済が抱えている問題を踏まえてそれに対する解決策として企業が何をしたらいいのかという詰めをやればよいと思っている。

連携というキーワードを考えたとき、商工会議所は市内の事業者が集まってできた組織であり、異業交流の場でもある。もっと連携すれば企業の力が強まるというのであれば、商工会議所がもっと頑張ればよいと感じた。

しかし実際は、商工会議所の頑張っていない訳ではなく、商工会議所だけの既成の活動だけでは突破できない課題がある。商工会議所には会議所としての活動があり、行政は行政の機能があり、企業は企業としての活動がある、そこが連携するためにはプラットフォームが必要になるのではないかな。

委員

DMOという観光施策を例に考えると、「観光振興」という目的達成の為に、観光協会に限らず「オール登別」で観光という視点からまちづくりをコーディネートする機能を持つ「プラットフォーム」を設置するということである。

委員

人材育成面として見れば、行政や商工会議所から「プラットフォーム」に人材を派遣することで、専門的な知識を持つ人材の育成が可能となる。

大型店と小規模店舗が連携し合い、まち全体の集客効果を生むための仕掛けづくりの場として、「プラットフォーム」が担うことができるのではないかな。

委員

日常生活の中で生じる悩みを解決してくれる企

委員

業の情報は、かつては周囲との繋がりの中で収集することができたが、昨今は周囲との関係性が希薄になり、簡単に情報を収集できる場所が無くなっている。生活に密着した全ての情報を一元化できる場所があれば、適正な住民サービスができる。

組織をコンパクトに運営していく際には、市内企業の業績を数字で把握し、その変化を根拠にしながら施策を考え、その効果を検証することで、施策の効率性を上げるべきである。

「プラットフォーム」は専門分野であればある程、専門的知識を有する人材がいなければ実現しないものであり、人の力に頼る仕組みは理想的とは言えない。

委員

行政と事業者との間を繋ぐ「中間支援組織」を設置する場合、人材育成や組織作りなどの基盤強化という観点から支援を行うことが大切である。財務管理やマーケティングの様に、多くの企業に共通する課題であっても、業種により専門的な知識が必要となる場合もあるため、専門性の程度を予め決めておく必要がある。中間支援組織は専門性を極度に高め過ぎると失敗するため、普遍的なテーマを質良く取り扱った方が、持続性のある取組となる。

このように、中間支援組織たる「プラットフォーム」のテーマを明確にしておく必要があると考える。型にはまった組織体ではなく、事務局がコーディネートしながらも、企業相互が細かいネットワークを自発的に構築し、全体が高められるような場を持たせるべきではないか。

連携するにはやはりメリットがないと難しいと思う。例えば登別温泉のホテルに地元の人が宿泊客を紹介したらポイントが付くような仕組みにしたら、もっと宿泊客が来るようになると思う。ポイントがたまると色々な楽しみが増える、そういうウィンウィンの形が大事になると思う。

委員

オール登別プラットフォームを構築し、ウィン

ウインの連携、大型店と小企業の連携、同業異業種間の連携、マッチング、このようなことが役割として考えられる。組織構成をもっと議論し、それによってコンセプトが見えてくるのではないかと思う、今後このように進めていきたいと思う。